



いじめの重大事態化をどう防ぐか？ ～事例検討から学ぶ～

令和7年度チーム学校生徒支援体制整備事業 第2回村山地区協議会 令和7年10月3日（金）

いじめの重大事態化を防ぐために、教職員一人一人の日常的指導力・対応力の向上が必要とされています。「他校で起こったことは、自校でも起こる」ことを念頭に置いた「ナレッジマネジメント（再発防止）」の視点を持ち、事例検討から学ぶことが重要です。今回は「若い学級担任からの質問」について一緒に考えてみましょう。

若い学級担任からの質問に皆さんならどんな言葉をかけますか？



自分の学級で、数人の男子生徒がAの持ち物を隠して笑っていることがよくあります。すぐに見つけられる所に置いてありますし、注意しても「Aも笑っているし、ただの遊びだよ」と言います。本人に聞くと「別に気にしてない」と言います。ただ、からかわれているような場面を見かけることもあります。対処に迷っています・・・。



- ・1人で抱え込まずに相談することが大切です。組織的な対応には報告・連絡・相談できる体制をつくることが重要です。
- ・いじめられた子どもは「心配されたくない」「仕返しを怖い」という気持ちから、「別に気にしてない」と答えることがよくあることを踏まえた対応が必要です。
- ・いじめの有無に関わらず、止めさせなくてはなりません。持ち物を隠して笑うことは遊びではないことや、からかいも含めて周囲の人はよい気持ちをしないことを伝える必要があります。今後も、困ったことがあれば誰かに相談することを伝えるとともに、教師による日常的な経過観察が必要です。



いじめ対応の難しさは、日常生活の延長上で起こり、逸脱性の判断が難しいところにあります。そのため、**加害児童生徒の意図を問わず、被害児童生徒の感じる被害性に着目し、幅広くいじめを認知することが重要**です。

（いじめの定義についてはQRコードを参照⇒）

人間関係の行き違いやトラブル、ケンカ、ふざけ合い、いたずら、いじり等から重大事態に発展する場合があります。そうならないために、日常的な**未然防止と組織的なチーム支援による早期対応が大切**です。また、各学校の「学校いじめ防止基本方針」を、**時代や地域、児童生徒の事情に沿ったより実効性のあるものにするための見直しや更新が必要**です。

いじめの重大事態に発展させないために…（生徒指導提要より）

いじめ問題が複雑化し、対応が難しくなりがちなケースとして次のような状況が考えられます。

周りからは仲がよいと見られるグループ内でのいじめ	被害と加害が錯綜しているケース	教職員等が、被害児童生徒側にも問題があるとみてしまうケース	学校として特に配慮が必要な児童生徒がかかわるケース
--------------------------	-----------------	-------------------------------	---------------------------

- ☆このようなケースについてはできるだけ早い段階から、SCやSSWを交えたケース会議が有効です。
- ☆情報の整理と管理、会議等の記録と保管を行うことも不可欠です。
- ☆問題に応じて、警察への相談など学校外の関係機関との密接な連携を図ることも重要です。

第2回学習指導力向上研修会

本研修会では、テーマを「全国学力・学習状況調査をもとに、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す」として、教科ごと6部会（小学校：国・算・理、中学校：国・数・理）に分かれて授業改善のポイントについて考えました。

教科別分科会では、各校の全国学力・学習状況調査の結果や分析をふまえた成果や課題を交流した後、特に課題が見られた調査問題を取り上げ、今求められる資質・能力を検討し、その資質・能力を育成のための授業を勘案する演習を行いました。算数部会の内容を一部紹介します。



【算数部会より】取り上げた問題…② 多角形（B 図形）（4）

図形の性質についての理解、式や言葉を用いて記述することについて、全国と比べて正答率が大きく下回った問題を取り上げ、求められる資質・能力を、「既習の図形を見いだすための図形を見る力」と設定して演習を行いました。参加された先生方は、グループで話し合いながら実際に問題を解くことで、学年の系統性をふまえる必要性や、図形のイメージをもつために具体物を操作したり補助線を引いたりするなどの体験的な活動の大切さを実感することができました。

【今後の授業づくりで大切にしていきたいこと】

どの部会でも、大切にしたいこととして「情報を整理すること」、「対話をとおして考えたことを話したり書いたり説明したりすること」などが挙げられました。子ども同士が、意見や情報の交流を通して、互いの考えに触れ、自分の言葉で書きまとめることで、全員が知識や技能を使いこなせるまで身に付けていくことが「主体的・対話的で深い学び」の実現につながります。今後も各校での分析及び課題に応じた授業改善に取り組み「確かな学力」の育成を目指していきましょう。

「確かな学力」の向上について（QRコード参照）



変化に対応し、未来を切り拓く力を育む学校を創る

令和7年度 学校経営計画指導訪問校の取組み ①

学校経営計画指導訪問は、「学校教育指導の重点」を踏まえ、教育課題・学習指導等について協議を行い、学校教育の一層の充実を図ることを目的に実施しています。

訪問させていただいた学校では、明確な経営方針のもと、児童生徒や地域の実態に基づいて教育活動を精選したり、児童生徒に寄り添い、家庭・地域と連携・協働して、安全・安心な風土の醸成を図ったりしながら、多様な学習機会を提供し、一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細かな指導を進めていました。該当学校の特色ある取組みの様子を3回にわたって紹介します。

【山形市立第三小学校】校長 高橋 和久

訪問日 令和7年6月16日（月）

- ◆ **ともに学び、豊かなくらしをつくる子ども**
～ 子どもに対する「信頼」と「期待」をもとに、子どもが自ら切り拓く学習の充実 ～

- 算数科を中心として、各教科の見方・考え方を明確にし、子どもの粘り強さと自己調整力を育むことを重点に掲げ、研究を推進している。子どもが課題解決の見通しをもてるような学習計画、学びに向かうための導入や課題設定の工夫、適切な自己評価をするためのふり返りなどを授業に取り入れている。
- 教員の働きやすさと働きがいを高め、ウェルビーイングにつながる働き方を目指し、学年内教科担任制を実施している。

【河北町立谷地中部小学校】校長 小山田 聡

訪問日 令和7年7月7日（月）

- ◆ **「Challenge & Thinking」**
～ 前に踏み出し チーム力を高め 考え抜く 中部の子 ～

- 学校教育目標の具現化のために、育成したい資質・能力を「前に踏み出す力(主体性)」「チーム力(協働・対話)」「考え抜く力(解決・創造)」の3つに焦点化して学校経営を行っている。
- 個別最適な学び・協働的な学びによる課題解決力・創造性を育む授業の実践として、子どもが自分でテーマを決めて学習を進める「個人総合(推し活)」や子どもが学習を調整しながら行う「自由進度学習」を年間指導計画の中に位置付けて実施している。